

1 学校教育目標

かんがえる子 がんばる子 やさしい子 げんきな子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○「通いたい学校」「通わせたい学校」「勤めたい学校」 ・児童が安心・安全に過ごすことができ、「できた・分かった」を体感できる学校 ・開かれた学校を推進し、保護者・地域が児童の健やかなる成長を実感できる学校 ・教職員が協働し支え合い、児童の笑顔から活力をもらえる学校
○児童・生徒像	・かんがえる子：学び方を身に付け、自分の考えを表現できる子 ・がんばる子：自分に自信をもち、より高い目標に向かって努力を続ける子 ・やさしい子：自分のよさと友達のよさに気付き、互いを認め合う子 ・げんきな子：心身の健康に気を付け、進んで運動に取り組み、安全に心がけて生活できる子
○教師像	○常に向上心をもち、児童と一緒に伸びようとする教師 ・教材研究と授業改善に努め、児童に成就感と達成感を与えられる教師 ・優しさ、温かさ、厳しさをもって指導し、児童が「愛されている」と実感させられる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

○児童について

明るく素直な子供たちが育っており、本校をよりよい学校にしようと、高学年を中心として頑張っている。目標を提示すると、それに向かって努力する児童である。長なわや短なわ、マラソンなど、季節に合わせた運動を行い、体力づくりにも積極的に取り組んでいる。挨拶では、立ち止まり挨拶や語先後礼、靴箱の靴揃えが定着しており、礼儀正しさも感じられる。

○教職員について

まとまりのある教職員集団であり、「チーム栗北」として機能している。特に学年内の連携がよく、教材研究や教材作成を協力して行ったり、掲示物を同一にしたりして、同調した指導を行っている。長く本校に在籍している担任はいなくなり、若手教員が多くなった。経験は浅いが、大変よく教材研究を重ねている。先輩教員は若手教員を伸ばそうと支援をし、若手教員は先輩教員の教えを積極的に吸収して教師力向上を目指して切磋琢磨している。

○保護者・地域について

両者とも、学校教育に対し非常に協力的である。図書、学習、花壇、外国語、交通など、様々な場面でボランティアとして学校を支援してくれている。コミュニティ・スクールとして学校運営にも参画してもらっており、地域の熱い思いが伝わってくる。学校・保護者・地域が「チーム栗北」として、同じベクトルで子供の健全育成に取り組むことができる。

【前年度の成果と課題】

○学力の向上

区学力調査の目標通過率は、国語 80.0%、算数 81.3%、と達成基準を上回った。授業力向上の取り組みは十分に行うことができたが、補充等の基礎

学力習得の取り組みは新型コロナウイルス感染症予防のため計画通りに進めることができなかった。

○豊かな心の育成

読書活動の充実は目標を達成することができなかった。自己肯定感や思いやりの育成は目標を達成することができた。ボランティア活動や体験的な学習は感染症予防のため取り組むことができなかったものがあった。

○健康・体力の保持増進

体力テスト、運動会、マラソン記録会、学校での歯磨きなど計画していた多くのことが実践できなかったが、代替の体育授業公開やなわとび活動を重点的に行うなど工夫をして取り組んだ。基本的な生活習慣は学校では身に付きつつある。家庭や地域でも実践できるように継続して取り組んでいく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプランによる学習内容の定着	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	健康・体力の保持増進	○	○	○	○	○
4	小中連携・小小連携（令和2年度より取組みとして1, 2, 3の内容に含めた）	○				

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－１		学力向上アクションプランによる学習内容の定着							
A　今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎基本の確実な定着		・ ３年度目標通過率　８０％ ・ 到達度確認テスト　７０％		・ ３年度の目標通過率８１％ ・ 達成度確認テスト６２％		学力テストでは目標は達成することができた。１月に行った達成度は低かったが、今後、補充をして進級させたい。		○	
B　目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象・ 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 継続	朝学習 (パワー アップタ イム)	全学年 国語 算数	毎週 火・木曜 日 始業前 10分	【指導者体制】担任 【取組のねらい・目的】 学習内容の復習・確認を 行う。 【使用教材】国語、算数等 のプリント	国語、算数と もにワークテ ストを活用し て、児童の達 成状況を確認 する。	ワークテスト の個人平均正 答率70%を 90%以上 (年2回、学期 末)	朝学習は、授業時数 を確保・会議時間捻 出のため実施回数は 減ってしまったが、 成果としては正答率 70%を89%達 成。	学習進度に合わせた プリントを多数準備 しておいたことで、 課題に応じたプリン ト学習が効率よくで きた。	○
2 継続	補充教室	全学年 国語 算数	・放課後 毎週 月・金曜 日 全員会 議の時 を除く	【指導者体制】担任・管理 職・専科 【取組のねらい・目的】 つまずきを克服したり、そ の日に学習した内容をふ り返ったりして基礎的・基 本的な学力の定着を目指 して、少人数で指導を行 う。 【使用教材】文章読解、言 語事項、漢字、計算等のプ リント	国語、算数と もにワークテ ストやワーク シートを活用 して、児童の 達成状況を確認 する。	ワークテスト の個人平均正 答率70%を 90%以上 (年2回、学期 末)	新型コロナウイルス 感染防止のため、実 施は、4月当初や10 月の限られた期間に なってしまった。	学校として組織的に 行うことは、感染予 防を優先したため、 実施しなかった。 しかし、学級単位で 教室を消毒しなが ら、短時間であるが、 少人数の放課後学習 を行った。	—
3 継続	サマースク ール	全学年 国語 算数 各学年約 10名程度	夏休み 期間中 の10日 各日50 分(前期 8日、後 期2日)	【指導者体制】 担任+管理職・専科 【取組のねらい・目的】 学年の担当者による短い授 業の後、練習問題を行う。 下学年にさかのぼってベー シックドリルや次へのステ ップ等を使い、つまずきを 解消する。また、夏休み前 までの授業内容の定着をね らい、個別指導を行いなが ら宿題を行う。 【使用教材】ベーシックドリ ル、計算プリント、夏休み 中の課題	夏休み終了後 に前学年の学 習内容につい ての確認テス トを行う。	夏休み終了後に 国語は前年区調 査問題、算数は ベーシックドリ ルを行い、平均 正答率80%以上 の結果を出す。	新型コロナウイルス 感染症拡大により中 止		—

4 継続	家庭学習強化	全学年 全員	年3回 6月 10月 1月	【取組のねらい・目的】 家庭学習の手引きを4月当初に保護者に配布説明する。家庭学習強化週間3回実施し、家庭学習の実践と家庭への啓発を図る。	家庭学習状況調査を行う。	10分×学年の達成率90%以上の結果を出す。	6月、11月、1月に実施。6月91.3%、11月91.4%を達成した。	家庭学習は小中連携の4校で取り組んでいる。家庭の協力もあり、定着してきている。	◎
5 継続	校内研究の充実	全教員 国語	年6回 +くりの木	【取組のねらい・目的】 教員の授業力向上を図る。	研究授業の実施回数	各学年1回年間6回の研究授業+くりの木	9月の臨時休校で1回は紙上研究となったが、6回の研究授業を行った。	国語の書く領域の研究を全学年で行った成果は大きい。また、特別支援の理解も深まった。	◎
6 変更	小中連携による授業力の向上	全教員 全教科	年5回	共通のテーマをもとに授業力を公開し、協議することで向上を図り、児童の学力向上につなげる。	公開授業の実施回数	小学校3回 中学校2回	新型コロナウイルス感染症拡大により小学校2回、中学校1回、公開授業を実施。	臨時休校のため本校の授業公開が実施できなかったのが残念。	○
7 継続	I C T の活用	全教員 全教科	通年	【取組のねらい・目的】 足立区I C T教育推進基本方針の実施。・分かりやすい授業・I C Tの活用	授業実践の回数・e ライブラリによる家庭学習の実施	3年以上授業でネット検索・e ライブラリ指導の実施	3年生以上でネット検索の技能は習得することができた。またe ライブラリも活用できている。	8月末に一人一台のタブレットが導入された。研修を重ね学年に応じて活用することが出ている。	◎

重点的な取組事項－ 2		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自分のよさを自覚し、自他ともに尊重し合う行動様式を身に付ける。		区学力調査の質問項目「自分には良いところがある」で70％以上。 校内調査で「自他を大切にしている」90％以上。	区調査で「自分には良いところがある」は2から6年の平均で79.8％。校内調査の「自他を大切にしている」11月は98.1％	自分も友達も大切にできている。自己肯定感、高学年に行くほど低くなっていく。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

豊かな心を育む読書活動の充実	年間を通して読書マラソンに取り組む。 目標を60%が達成する。(1月末) ・50冊または10,000ページ	・春と秋に読書旬間を実施する。 ・担任・図書ボランティア等による読み聞かせを実施する。 ・図書館との連携を図る。	読書マラソンを年間通して行った。さらに春と秋に全校で読書旬間を行った。コロナ禍のため外部との交流はできなかった。 読書マラソンの達成者は、40%である。	本を身近に置く習慣は少しずつ付いてきている。読書マラソンに取り組んだ初年度なので、今後改善を図って豊かな心を育てていきたい。	△
自己肯定感の育成 思いやりの心の育成	「かみきそあじ」調査調 で 自己肯定感に関するア ンケートで80% 自他の尊重で90%	・hyper-Q Uテストの分析と校内体制で支援を行う。 ・全教職員による「ほめ育て」の実践 ・体験的学習の実践 ・ボランティア活動の実践	11月のアンケート調査では、自己肯定感84.7%、自他の尊重98.1%であった。1度目のhyper-Q Uテストで要支援となった8人中7人が改善した。子供たちを全教職員で認め支援をした成果と考える	ボランティアや体験的な学習を数多く計画したが、コロナ禍で実施できなかったものが多い。相手を思いやる心は育っている。	◎
命をつなぐ千住ネギの栽培活動	・4年生が年間を通して、千住ネギを栽培し、種を次年度の4年生に引き継ぐ。	・千住ネギ栽培を引き継ぐ意義を理解させる。 ・花壇ボランティアや農業委員の力を借りながら1年を通して栽培を行う。	千住ネギ栽培は、その意義を4年生なりにしっかりと理解し、取り組むことができた。様々なトラブルを体験したことも、農家の方への感謝につながった。	学習発表会では、千住ネギから発展させ、江戸東京野菜について調べ学習を行い、発表をした。	◎

重点的な取組事項－３		健康・体力の保持増進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生活習慣の定着と体力の向上		生活振り返り週間の調査・結果周知を２回行う。 体力テストの都平均を前回（４０）よりも多くの種目・学年で上回る。	生活振り返り週間の調査はコロナ禍のため冬休み後の１回となった。体力テストの結果が都を上回ったのは１４種目に留まった。	コロナ禍で確実に子供たちの日常的な運動量が減っている。体育だけでは補いきれない。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

体力の向上 (特に投力)	体力テストで一昨年よりも多い種目・学年で都平均を上回る	・体育でコーディネーション運動を取り入れた運動量豊富(2000歩)な授業の実践。 ・業間体育(マラソン、短なわ、長なわ)の実施。 ・運動の日常化	体育の授業ではコーディネーション運動を取り入れ、2000歩の運動量を目指してきた。業間のマラソンは今年も実施できず、短なわのみの実施となった。投力は低学年では都を上回っている。	全国や都の数値が落ちた中でも、その平均に達していない。低学年の投力を継続して向上していけるよう授業改善を図っていく。	△
基本的生活習慣の定着 (特に挨拶・整理整頓)	小中連携校で共通実践「かみきそあじ」(家庭学習・身に付けるもの・聞き方・掃除・挨拶・時間を守る)調査で85%	・年3回の生活振り返りの実施 ・毎日の挨拶運動 ・児童朝会での啓発	「かみきそあじ」に靴揃えを加えて意識化を図っている。5、11月(1月はリモート学習のため実施なし)に実施した。2回の平均は89.1%であった。	6年生が丁寧な挨拶をして手本になったり、5・6年で学級全員が達成したりして下学年の手本となった。よい伝統となりつつある。	◎
保健衛生指導の推進	・虫歯罹患率15%未満 ・虫歯未治療率30%以下	・歯みがき指導の実施 ・継続した虫歯治療勧告。 ・朝会時に保健委員による健康衛生等の指導を行う。 ・年間を通した手洗いの励行	ハロー6ちゃん教室や染め出しによる歯みがき指導を行い、虫歯罹患率を8%に押さえることができた。朝会が全て放送やオンラインになったため、保健委員会による指導はできなかった。年間を通して手洗いが確実にできた。	唯一子供たちが自分で防げるのは、虫歯である。学校での歯磨きがコロナ禍でできない状況であるが、家庭の協力もあり、罹患率が低く抑えられた。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項ー1 学力向上アクションプランによる学習内容の定着

【課題】5年生の算数の通過率が66.3であり、学習定着に課題がある。算数では「数と計算」「図形」で二極化が見られる。また、思考・判断・表現を伴う問題や記述式で解答する問題の習熟度が特に低い。

【対策】計算の仕方を考えたり、工夫して計算したりする場面を設定し、既習の計算のきまりを取り上げながら、計算のきまりが児童にとって抵抗感なく使えるように指導をする。

- ・パワーアップタイムでベーシックドリルにより、学習は有効だった。次年度はAIドリルを活用して課題克服に取り組んで行く。
- ・昼学習や放課後学習はコロナ禍のため実施できないことがあったが、児童にとって大変有効な取り組みなのでできる限り行っていく。

重点的な取組事項ー2 豊かな心の育成

達成基準とした学力調査質問項目「良いところがある」は平均79.8%で目標を大きく超えることができた。今年度よりスタートした読書マラソンは目標には達しなかったものの、読書に継続的に取り組ませることには効果があった。取り組みを改善し、次年度も継続していく。情操を育てるためには体験的な学習やボランティア活動が欠かせない。今年度は計画したことが十分にできないことがあったので、来年度は新しい生活様式にあった計画に組み替えていく。hyper-QUテストは今年度より2度の実施となり、取り組みの成果を確かめることができた。次年度も要支援者がゼロになるように、一人一人の居場所を学級に作っていききたい。

重点的な取組事項ー3 健康・体力の保持増進

生活振り返りの取り組みは冬季休業明けのみになった。運動会やマラソン記録会も形を変え実施することができた。体育は身体接触や交流ができないため、授業内容の制限があったが、コオーディネーション運動を取り入れたり、常に 2000 歩の意識したりして、運動量豊富な質の高い体育授業を目指したが、6 月時点に行った体力調査では体力の低下が著しかった。学校での生活習慣の定着は、「かみきそあじ+1」の調査で確認できているので、今後も質の高い体育授業、休み時間の外遊びで体力の向上を図りたい。

（２）保護者や地域へのメッセージ

今年度も新型コロナウイルス感染症のため、常に感染拡大防止を優先して教育活動を行ってきました。まずは保護者・地域の皆様に学校の方針にご理解とご協力をいただいたことに感謝いたします。本校の特色でもある多くのゲストティーチャーを招いての体験的な学習や学校行事、縦割りでの活動、学年で力を合わせて取り組む活動が十分にできませんでした。コロナ禍で十分に学校の様子を伝え切れていない状況にもかかわらず、学校診断アンケートでは、本校の教育活動に肯定的な評価を数多くいただきました。次年度は可能な限り、子供たちの体験的な活動を展開し、学主の様子を公開していきたいと考えます。

重点的な取組事項 1 の学力定着については、達成基準を超えたといえ、まだまだ十分とは言えません。今後も基礎基本の完全習得、学力向上に全力で取り組んでまいります。

次年度も様々な面で、お子様を「安心して通わせることができる学校」、地域の方が「誇りに思える学校」を目指して、『全ては子供たちのために』を合い言葉に教職員が一丸となって取り組んでまいります。保護者、地域の皆さまのさらなるご支援をお願いいたします

（３）その他（学校教育活動全般について）

今年度も教室での学校公開を行うことができませんでした。3 年に一度の学芸会は、学習発表会に変更し、学年ごとに学習の成果を舞台やパネルブースで工夫し発表しました。運動会は学年ごとに表現と短距離走を公開し、マラソン記録会は今年度も学級ごとのペース走の公開をしました。子供たちの様子を見ていると家族に見てもらえるといううれしさや頑張りを強く感じました。保護者の皆様いただいた感想には、お子様の成長を直に感じることもできた喜びが溢れていました。来年度も、子供たちがより良く成長し、共に成長を喜び合える機会を実現できるよう教育活動を展開してまいります。